

平成26年度第1回長浜市健康づくり推進協議会要点録

1. 出席者

委員:13名出席、1名欠席

事務局:部長他7名

2. 協議内容

挨拶 市長

(1)「みんなで一緒にながはま健康ウォーク実行委員会」の設置について

委員全員事業に賛同し、実行委員会の設置を承認。実行委員長に市長、副委員長に手操委員、会計監事に岡野委員と松井委員を選出、承認。参加しておられる団体の名義後援を依頼。

(2)「健康ながはま21の第2期事業実施報告と第3期実施事業計画」について

① ダイジェスト版 P6 のソーシャルキャピタルの醸成の目標をみると、何をどうしていきたいのか、もう少しわかりやすい表現が必要ではないか。言葉自体もわかりにくい。

→(回答) 地域づくり協議会で健康づくりパートナーシップ事業として、補助金60万円、6地区程度、健康を通じた地域のつながりを作っていくことを目標としています。昨年度から地域づくり協議会へ健康づくりについて働きかけているところを中心に声かけしています。

ソーシャルキャピタルという言葉については、一般的にわかりにくいですが、国の計画の中で用いられた流れとして、県そして本市も表現を用いています。注釈は、ダイジェスト版の1ページ目の下、計画の初出のページにそれぞれ掲載しています。

② ゲートキーパー養成の効果はどのような状況ですか。

→(回答) 一般市民の方から、周囲の人で心配な人の相談が行政へあがってきている。また、企業の人事担当者からの相談もあり、徐々に浸透している。

③ へき地医療の状態はどうですか。

→(回答) 中之郷診療所は常勤医師がいない状況である。

湖北病院は、医師が少なく、内科の医師は日赤や長浜病院から応援いただいている。

西浅井診療所は、次年度から指定管理にする予定です。

浅井リハビリテーションクリニックが9月末で撤退するので国保直診にする手続き中である。

地域全体でみると安心な状況ではない。3病院で補完している状態である。休日急患診療所も休日を補完する役割を担っている。長浜病院も呼吸器や泌尿器科の医師が減っている。

救急搬送による救急医療は90%以上湖北地域内で対応してもらっている。

④ 県の方でも「元気で長生き」ということで特定健診やがん検診の受診率向上を目指しています。

特定健診の受診率向上が作用し、糖尿病予備軍が減ってきています。

がん、脳卒中の予防策として、運動と塩分、栄養改善、塩分摂取量の減少を進めています。

民間での健康づくりを県として支援しており、びわ湖放送で取材をさせてもらっているので、頑張っておられる団体がありましたらお知らせください。

⑤ 健康推進員協議会では健診受診率向上と、塩分摂取の減少に取り組んでいます。健診を受ける人は決まっており、どちらかといえば問題ない人が受診しています。受けない人、健康でない人が健診を受診する手法が必要です。余呉地区では、地域づくり協議会で昨年度から健康づくりに取り組み、余呉地区は変わったと言われたと考えている。そのために、市や保健所から地域の有病率等の情報提供

をいただき、健康課題を出して、力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

- ⑥ 身体活動・運動分野に長浜市の特定保健指導の受診率があるが、県で上位6番目であり、半分の人が最後まで取り組んでおり一定の成果が上がっている。ただし、健診受診については、必要な人危ない人が受診していない状況である。
- ⑦ 喫煙対策分野で、公共施設では敷地内禁煙はできているのですか。
- (回答) ウェルセンターは敷地内禁煙ができています。市役所の他の庁舎は分煙であり、喫煙室があります。日赤や市民病院では敷地内禁煙です。
- (回答) 学校は敷地内禁煙です。また、小学6年生と中学3年生の保健学習の教科書に喫煙の害について掲載されており、指導をしています。
- ⑧ 歯・口腔の健康分野で、歯科医院、健診等で定期的なフッ素塗布を推進するとありますが、インフォームドコンセントはできていますか。
- (回答) 1・8、2・8、3・8 健診で歯科検診の際、希望者に説明してフッ素塗布を実施しています。すこやか手帳でフッ化物の説明や効果、副作用を伝えています。
- ⑨ がんの早期発見と重症化予防の分野で、肺がん検診の実施をされるのは良いが、併せて受動喫煙と肺がん予防について周知してください。
- ⑩ 食育の分野において、塩分摂取量は減ってきています。しかし、郷土食の継承を推進しておられるが、郷土食は塩分が多いので注意していただきたい。
- ⑪ 学校では、バランスの良い食事を指導しています。また、もったいないということも伝えています。しかし、もったいないとは思っても、食べる・食べないの選択は食べたくないものは食べない傾向があり、朝食をとっていない子ども、今の子どもたちは食べたくないものは食べないのが現状です。好き嫌いのない子どもは1/4であり、偏食のある子どもについては、個別の食育指導をしています。自分の体のために食べること、生きるために食べることの大切さを伝えています。
- ⑫ 地域医療の分野で、休日急患診療所の運営と適正な休日の救急医療受診の利用啓発をいただいたおかげで、平成16年には長浜日赤の救急患者は日本一で4万5千人であったのが、現在2万人であり、先生方の疲弊が抑制され、重篤な方への適切な救急対応ができるようになり感謝しております。